

1 学校教育目標 希望と目標を持ち、自立の基礎を身につけた生徒の育成 ・ 知【生きて働く学力】 ・ 徳【豊かな人間性】 ・ 体【健やかな身体】	2 本年度の重点目標 ① いじめや差別を見抜き許さない人権・同和教育の推進(すべての教育活動の根幹への位置づけ) ② 特別支援教育の視点による生徒対応、支援を要する生徒の早期発見・早期対応 ③ すべての教育活動をキャリア教育へのコーディネート ④ 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、深い学びの研究推進 ⑤ 保健・安全教育、食育および部活動の充実による、自ら健康の保持増進に努める生徒を育成 ⑥ 幼保小中連絡協議会、相知地区青少年育成協議会との連携強化(町ぐるみの子育て) ⑦ 校務分担と協働による働き方改革
--	--

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

- ① いじめや差別を見抜き許さない人権・同和教育の推進(すべての教育活動の根幹への位置づけ)
- ② 特別支援教育の視点による生徒対応、支援を要する生徒の早期発見・早期対応

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○人権教育	人権・同和教育の実践	・全ての学級・学年で人権・同和教育に関する授業を行い、授業が自分を高めていると感じている生徒が85%以上	・学年で学習指導案や資料を共有化し検討会を行う。また、人権学習や部落問題学習の授業を積極的に家庭・地域や唐津地区内の小・中学校に公開する。
	●心の教育	支援を要する個々の生徒に応じた、きめ細かい対応	・困ったときに先生に相談できると思う生徒が80%以上 ・担任が一人だけでなく、チームで対応できた実感する職員が80%以上	・生徒指導協議会を有効に活用し、担任・学年・生徒指導・教育相談等との連携を更に密にする。スクールカウンセラーや他機関の利用も促進する。全職員で機敏な対応に心掛け本人や保護者の気持ちに寄り添ったサポートをする。 ・Q-Uの結果を有効に活用できるよう、職員の研修機会をつくる。 ・ピアメデイエーションの手法を導入する。
	●いじめ問題への対応	自他を大切にし豊かな心を育てる仲間づくり	・2回目の「Q-U」で学校生活への満足度が向上する ・自分や仲間の良さに気づく生徒が85%以上	・「Q-U」を有効活用するなど学活や学年集会で、人間関係作り役に立つ学習の場を設定し、よりよい集団の成長を促すと共に、教育相談の充実による生徒理解に努める。 ・生活アンケート・教育相談アンケートの活用や、集団の質を高める活動・道徳の授業等を通して、生徒の自己肯定感や他者肯定感を高める。 ・学校の取組を学校便り等を通して、家庭や地域の理解・協力に努める。

- ③ すべての教育活動をキャリア教育へのコーディネート
- ④ 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、深い学びの研究推進
- ⑥ 幼保小中連絡協議会、相知地区青少年育成協議会との連携強化(町ぐるみの子育て)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○生徒指導	あいさつ運動による社会性の向上	・きちんと挨拶ができる生徒が90%以上	・生徒会活動の活性化や小中連携を通じた挨拶運動の充実 ・生活アンケート等の項目に入れ、生徒の意識を高める。 ・地域への啓発活動に努める。
	○生徒会活動	生徒会各部の活動内容の充実	・生徒会活動に主体的に参加していると感じる生徒が90%以上	・本部役員を中心に生徒自身が自発的に活動できる環境を作る。 ・目標の達成率を生徒集会等で公開し、各クラスの専門部がPDCAサイクルを意識し活動できるようにする。 ・委員会同士の連携や内容の精選を図る。
	●学力向上	学習意欲の向上	・生徒同士で互いの考えを深め、高め合える授業を行う。 ・自主学習ノートの提出率が各クラスとも90%以上	・課題の提示の仕方を工夫する。 ・各授業で、生徒一人一人が考える時間や発表・検討し合える時間を設定する。また、グループ活動等を踏まえた研究授業を実施する。 ・家庭学習の習慣化を図るため、自学ノートや課題を、各担任や教科担任がチェックし指導する。
		「見える学力」の向上	・全国学習状況調査、県学習状況調査結果が県平均を上回る。 ・授業が充実していたと感じる生徒が85%以上 ・充実した朝読書ができたと感じる生徒が90%以上 ・充実した朝の学習トレーニングができたと感じる生徒が80%以上	・全国学習状況調査、県学習状況調査結果の分析を全職員で行い、授業にいかす。 ・学習規律・生活規律・仲間づくりの土台を元に、グループ活動等の授業を取り入れる。 ・毎時間の授業や単元の中で、めあてやまとめを明確に提示し、生徒の主体的な学習活動を促す。 ・朝自習の取り組みについて、全職員で指導・支援し、生徒の意識を高める。
	●志を高める教育	自己実現に向けた進路指導	・自分の進路について意識向上ができた生徒80%以上	・1年の職業調べ学習、2年の職場体験学習、3年の進路学習で計画的に発展させていくと共に、発表会等で保護者や地域の理解と協力を図り推進していく。
	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	ICTを活用した教育の実践	・コンピュータや電子黒板等の活用率を80%以上	・校内研修等の充実を図り、コンピュータや電子黒板等活用を促進する。 ・授業参観や便り等を通して、ICTを活用した学習活動を紹介する。

- ⑤ 保健・安全教育、食育および部活動の充実による、自ら健康の保持増進に努める生徒を育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成及びバランスのよい体力の向上	・早寝・早起きができている生徒が85%以上 ・朝ごはんがとれている生徒が90%以上 ・体力テストの数値が佐賀県平均を超える	・学校便りや保健便りを通して、生徒や保護者に啓発を行う。 ・生活習慣と健康に関する調査を行い、必要に応じて家庭との連携を図り、個別の保健指導をする。 ・スポーツテストの結果を各生徒に配布し、体育の授業の準備運動に必要な体力要素の運動を取り入れていく。

- ⑦ 校務分担と協働による働き方改革

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学 校 運 進	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	教職員の働き方についての意識改革	・時間外労働の時間が80時間を越えないようにする。	・働き方についての意識改善を図るために、時間管理や健康安全管理等の啓発を行う。 ・ペーパーレス会議を導入する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学 校 運 営	○危機管理	危機管理体制の整備	・緊急事態に対してマニュアルを元に適切な対応ができると答える職員が90%以上 ・事故や災害等に対する危機意識の向上が図れた生徒が85%以上	・本校の危機管理マニュアルや新聞記事やTV等から学校に関する事件・事故の情報を活用した研修や、実際に行動できるよう取り組み等研修や訓練を行う。 ・生徒の危機意識の向上を高めるための防災訓練、交通安全訓練等や教育講演会を年3回以上実施する。 ・危機管理ファイルを作成する。